



大学ボランティアセンター 職員セミナー2026

オンライン
Zoom開催

イマドキの大学生を惹きつけるコーディネート ～コスパ・タイパ重視のニーズにどう応えるか～

近年、就職活動の早期化に伴い、学生は大学入学直後、場合によっては入学以前から将来の就職を意識した生活を送っています。授業や課題、アルバイト、サークル活動、友人関係、インターンシップなどで日々の予定は埋まり、効率や成果を重視する「コスパ」「タイパ」志向や、「ガクチカ」として評価されやすい活動を求める傾向が強まっています。

しかしその一方で、多くの学生は大学時代に多様な経験を積み、自らを成長させたいという思いも抱えています。他方、地域社会では人口減少や高齢化による担い手不足が深刻化し、大学や学生への期待が高まっています。学生のボランティア活動は、地域課題の解決に貢献するだけでなく、異なる世代や価値観との出会い、主体的な行動や協働を通じて、先行きが不透明で変化の激しいVUCA時代を生き抜く力を育む貴重な学びの機会となります。

本セミナーでは、限られた学生の時間を地域とどのようにつなぎ、学生と地域双方にとって価値ある関係を築いていくのかという視点から、大学を取り巻く環境の変化と地域社会の期待を踏まえ、学生ボランティアを支援する立場として何ができるのかを参加者のみなさんとともに多角的に考えます。

開催日

9/11(金) 9:30～12:30
15(火)13:30～16:50

定員

各日40名程度

対象

大学ボランティアセンター、サービスラーニングセンター、地域連携センターなど学生・大学の社会貢献活動を推進する部署、プログラムの運営、実践に関わる教職員／開設を検討している教職員／支援を担当されている大学教職員／開設や運営を支援している学外の中間支援組織の方

参加費

9/11(金)基礎セミナー 4,400円
9/15(火)実践セミナー 4,400円
(各日、JVCA正・準会員は3,960円)

申込



<https://ws.formzu.net/dist/S51483631/>
締切:9/7(月)17:00

9/11(金)9:30～12:30
基礎セミナー

学生がボランティア活動に参加する意義や、大学としてどのようにボランティア活動を支援すればいいのかなど、大学ボランティアセンターの運営に必要な基礎知識を学びます。また、学生ボランティアに対する地域の期待や学生を地域の施設や団体に送り出すにあたり留意しておきたいことなど、ボランティアコーディネーションのポイントについても理解を深めます。

また、後半では学内の人事異動や他職種からの転職など、ボランティア活動の支援を専門としてこなかった立場からボラセンで働くこととなった職員の体験談から、大学ボラセンにおける適応と能力形成について考えます。

大学ボランティアセンターの新任担当者のほか、今後、センターの設立を検討している大学、設立したばかりの大学の教職員の参加も歓迎します。

講師

大谷大学
社会学部 教授
地域連携室長
赤澤 清孝さん



【講師プロフィール】

1974年兵庫県伊丹市生。阪神・淡路大震災をきっかけに翌年、学生有志できょうと学生ボランティアセンター(後のユースビジョン)を設立。学生のボランティア活動支援や団体のマネジメント支援に取り組む。2013年より大谷大学教員として学生らと地域連携活動を展開。著書に『新・学生のためのボランティア論』(社福)大阪ボランティア協会,2025,共編著)等。

主催・問い合わせ

認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)
TEL 03-5225-1545 E-mail:jvca@jvca2001.org

9/15(火)13:30~16:50 実践セミナー

参加にあたって

- ・分科会は第1希望から第2希望までお聞きし、調整します
- ・同じ所属から複数の方が参加される場合でも、一人ずつお申込みください
- ・グループワークを行いますので、一人一台の機器(PC等)でご参加ください

<全体会>13:30~14:10

「イマドキの大学生を惹きつけるコーディネート ~コスパ・タイバ重視のニーズにどう応えるか~」
ゲスト: 滝井 元視さん(高崎商科大学短期大学部准教授、キャリアコンサルタント)

<分科会>14:20~16:50 ※いずれか1つにご参加いただきます

- 【分科会1】ボランティアを“選ばない”から“選びたい”へ！学生の主体性を引き出す成長とキャリア支援
- 【分科会2】多様な学生スタッフのあり方とボランティアコーディネーション
- 【分科会3】学生の次の一歩を応援したい！ ~型にはめない、押してひく絶妙なコーディネートを考える~

分科会1 ボランティアを“選ばない”から“選びたい”へ！ ~学生の主体性を引き出す成長とキャリア支援~

就活の早期化に伴い、失敗を恐れて「標準化されたルール」を走る学生が増えています。その結果、サークルや趣味、偶然の出会いといった「予測不能な経験」に時間を割けなくなっているのが現状です。しかし、他者と向き合い、役割を模索し、失敗から学ぶボランティア活動こそ、確かなキャリア形成の場ではないでしょうか。本分科会では、学生がキャリアの選択肢としてボランティアを選べるよう、大学ボランティアセンターのコーディネーターがその価値をどう伝え、関わりをつくるかを皆さまと考えます。学生の可能性を広げるアプローチを、一緒に探りませんか？

話題提供者 : 滝井 元視さん(高崎商科大学短期大学部准教授、キャリアコンサルタント)
進行・事例提供: 赤澤 清孝さん(大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科教授)
秋田 有加里さん(愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター コーディネーター)
竹田 純子さん(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター コーディネーター)

分科会2 多様な学生スタッフのあり方とボランティアコーディネーション

『大学におけるボランティア活動支援に関する全国実態調査』(2026年3月発行)によると、「ボランティア活動支援を主たる業務とする部署がある」と答えた79大学のうち約半数に「学生スタッフ・学生コーディネーター」が存在します。学生スタッフの位置づけや役割は、各大学の方針によってさまざまですが、ボランティアセンターと学生スタッフが対等なパートナーとして協働を目指すうえでどのようなコーディネーションが求められるのでしょうか。本分科会では、学生スタッフとともにボランティアを推進し、ボランティアマインドを育みあうための各大学の工夫を共有します。学生とのよりよい協働のためのヒントを持ち帰りましょう。

コメントーター: 川田 虎男さん(埼玉県立大学社会福祉子ども学科准教授/聖学院大学地域連携・教育センターアドバイザー)
話題提供者 : 上條 直美さん(フェリス女学院大学ボランティアセンター コーディネーター)
山崎 智文さん(京都産業大学ボランティアセンター コーディネーター)

分科会3 学生の次の一歩を応援したい！ ~型にはめない、押してひく絶妙なコーディネートを考える~

私たちコーディネーターは、ボラセンで見せる姿だけで学生をわかった気になっていないでしょうか？型にはめたコーディネートをしていないでしょうか？学生一人ひとりに対し、どこまで提案し踏み込むか、時間と距離を置くか、そのタイミングと関わり方を見極めるのは難しく、またマニュアルもなく、試行錯誤しています。この分科会では、事例共有とグループワークを通して、コーディネーターの絶妙なアプローチを共に考えていきます。

コメントーター: 山田 一隆さん(東海大学文理融合学部教授)
話題提供者 : 芦澤 弘子さん(青山学院大学シビックエンゲージメントセンター コーディネーター)
岡 秀和さん(関西学院大学ボランティア活動支援センター コーディネーター)
開澤 裕美さん(中央大学ボランティアセンター コーディネーター)

【企画・運営】大学ボランティアセンター職員セミナー2026実行委員会

委員: 赤澤清孝(大谷大学)、秋田有加里(愛知淑徳大学)、芦澤弘子(青山学院大学)、岡秀和(関西学院大学)、開澤裕美(中央大学)、上條直美(フェリス女学院大学)、竹田純子(龍谷大学)、山崎智文(京都産業大学)